

## 価格の働き

商品の需要量，供給量は，その商品の価格によってきまる．しかしそれだけではなく，その他のさまざまな要因の影響も受ける．価格の背後にあるそれらの要因が変化すると，均衡価格は変化する．このように，価格は，背後の要因の変化を示すシグナルとして働き，資源がどのように配分されるかをきめる．

### I. 市場均衡とその安定性

#### A. 市場均衡

##### 1. 需要法則と供給法則

###### a. 需要法則

- (1) 価格が高いほど需要量は少なくなる．
- (2) 需要曲線

###### b. 供給法則

- (1) 価格が高いほど供給量は多くなる．
- (2) 供給曲線

##### 2. 市場均衡

###### a. 需要量と供給量の一致

###### b. 均衡価格 ( $p^*$ )

#### B. 均衡の安定性

##### 1. 市場の不均衡

- a.  $p > p^*$  → 供給量が需要量を上回る（超過供給）
- b.  $p < p^*$  → 需要量が供給量を上回る（超過需要）

##### 2. 均衡の回復

- a. 超過供給 → 価格の下落
- b. 超過需要 → 価格の上昇

### II. 供給と需要

#### A. 需要側と供給側

##### 1. 消費のための財サービスの市場

- a. 需要側： 家計
- b. 供給側： 企業（家計）

##### 2. 生産のための財サービスの市場

- a. 需要側： 企業
- b. 供給側： 家計及び企業

#### B. 需要量，供給量が価格の変化によって変化する理由

##### 1. 個々の家計または企業の需要量，供給量の変化

- a. 価格が高いほど需要量は少ない．
- b. 価格が高いほど供給量は多い．

##### 2. 家計，企業の数の変化

- a. 価格が高いほど，需要側の家計，企業数は少ない
- b. 価格が低いほど，供給側の家計，企業数は多い．

### III. 需要供給を決定する諸要因

#### A. 消費のための財サービス

1. 所得
  - a. 正常財または上級財 normal goods
  - b. 劣等財または下級財 inferior goods
2. 関連財の価格
  - a. 代替財 substitutes
  - b. 補完財 complements
3. 人々の好み
4. 将来に関する予想

#### B. 生産のための財サービス

1. 産出物の価格
2. 関連投入物の価格
  - a. 代替財
  - b. 補完財
3. 技術
4. 将来に関する予想

### IV. 供給を決定する諸要因

#### A. 生産者の供給

1. 投入物の価格
2. 技術
3. 将来に関する予想

#### B. 消費者の供給

1. 労働の能力
2. 生産に使える資産（土地，建物など）の保有量
3. 消費のための財サービスの価格
4. 欲求
5. 将来に関する予想

### V. 需要の変化と需要量の変化，供給の変化と供給量の変化

#### A. 需要量，供給量の変化と需要，供給の変化

1. 需要量，供給量の変化：価格変化にともなう需要量の減少，供給量の増加
2. 需要，供給の変化：需要曲線，供給曲線の移動（シフト）

#### B. 需要の変化（需要曲線のシフト），供給の変化（供給曲線のシフト）の影響

1. 均衡価格と取引量の変化
2. 資源配分の変化

## 参考文献

教科書．第 1 章．

Schumpeter, Joseph A. (1954) *History of Economic Analysis*. New York, New York: Oxford University Press. (東畑精一, 福岡正夫訳『経済分析の歴史』東京: 岩波書店, 2006 年.)

## 需要法則に関する附録

### A. 需要法則の発見

Gregory King (1648–1712)

小麦の収穫と価格に関する観察

$q$	5	6	7	8	9	10
$p$	55	38	26	18	13	10

*Natural and Political Observations and Conclusions upon the State and Condition of England in 1696.*

Charles Davenant (1656–1714)

*Essay upon the Probable Methods of Making a People Gainers in the Balance of Trade*, 1699.

G. Undy Yule

$$y = -2.33x + 0.05x^2 - 0.00167x^3$$

“Crop Production and Prices: A Note on Gregory King’s Law .” *Journal of the Royal Statistical Society*, 1915.

### B. 需要法則を用いた経済分析の古典

1. A. Augustin Cournot (1801–77)

a. *Les recherches sur les principes mathématiques de la théorie des richesses*, 1838.  
(富の理論の数学的原理に関する研究)

b. 市場競争の帰結に関する研究

2. Alfred Marshall (1842–1924)

a. *Principles of Economics*, 1890. (経済学原理)

b. 需要と供給の相互作用による価格と資源配分の決定